

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	富山県	市町村名		大学名	
派遣日	令和3年8月24日(火曜日) 13:30~16:30 ※研修実施要項は別添				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	富山県総合教育センター (Zoom)				
アドバイザー氏名	今澤 悌				
相談者	富山県教育委員会				
相談内容	「外国人児童生徒教育実践講座」の講師として、市町村立、私立、国立の幼・小・中・高の教員及び外国人相談員のうち希望者を対象として、以下の内容で研修を行う。 「H こどもの日本語教育の理論と方法」講義・演習 ○言語教育の考え方と方法 ・「JSL カリキュラム」の実際について、演習 ○学習活動 ○教材・教具の利用と作成				
派遣者からの指導助言内容	「子どもたちへの『日本語指導』」 1 5つの日本語プログラムについて (1)「サバイバル日本語」プログラム (2)「日本語基礎」プログラム (3)「技能別日本語」プログラム (4)「日本語と教科の統合学習」プログラム (5)「教科の補習」プログラム ・日本語プログラムのコース設計 ・日本語言語能力と学習言語能力 ・子どもの第2言語習得 2 「日本語と教科の統合学習」プログラム (1)「JSL カリキュラム」のねらいと特徴 <事例1> (理科 小学校3年)「チョウを育てよう」 (2) 授業づくりのステップ ・目標を決める(教科の目標・日本語の目標) ・目標を明確に立てる ・学習活動を考える ・支援を考える(理解支援・表現支援) (3) 日本語指導担当者、在籍学級担任の悩みと支援の在り方 <事例2> (社会科 小学校5年)「自然条件と人々の暮らし」 <事例3> 「書く」学習活動での支援 (4) 中学生への「日本語と教科の統合学習」 (5) 日本語指導で育むこと (6) 子どもの第2言語習得で気を付けたいこと				

<p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p>	<ul style="list-style-type: none">・受講者は、「JSL カリキュラム」について、日本語で学習活動に参加する力の育成をねらいとし、子どもの実態に応じた個別のカリキュラムを作成すること、日本語を教科学習の場面から切り離さずに学習すること、具体物や直接体験により、学びを支えること、子どもの学習参加を支援するために日本語表現を調整し明確化すること等のポイントとその重要性を学んだ。・授業づくりのステップとし、①在籍学級の授業の分析、学習内容の決定、②目標の設定、③計画、展開の構想、④支援の工夫を、具体的な授業の事例を基に学び、「教科と日本語の統合学習」授業のイメージをもつことができ、2学期からの授業づくりに生かそうという参加者の意欲につながった。専門性の高い講師からの指導をオンラインで直接受け取ることができ、大変有意義な研修会となった。次年度以降も専門家による講座の開催を検討したい。・教育現場では、子どもたちの実態を多角的に捉えきれないままに、不十分な計画の下で指導が行われていることがある。子どもとの関係を結びながら情報を引き出し、DLAによるアセスメントを併用して実態把握を行い、関係者が連携を図って個に応じた支援ができることを目指したい。DLAによる実態把握の仕方、JSL カリキュラムの授業づくり、各校の取組の情報交換、授業観察による研修等を継続して実施し、県内に外国人児童生徒教育の理解と支援の在り方を広めていく。
---------------------------	--